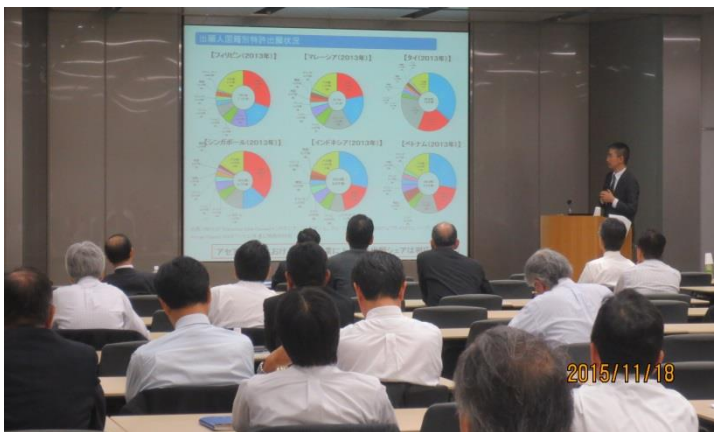


JST サイエンスプラザの会場をお借りし、60 名を越える参加者を得て開催しました。代表幹事報告に引き続き、2 つの講演がありました。

一つ目は、特許庁審査第一部主任上席審査官大熊靖男氏に「ASEAN の最近知財状況」と題して講演を頂きました。

アセアン諸国は経済的に緩やかな安定成長が期待される地域です。各国は人口、面積、経済規模も異なり、多様な民族社会で言語や宗教も様々であり、政治体制も異なることなど各国の基本認識に始まりました。さらにタイ、ベトナムなどでは人口ボーナスが弱くなってきていること、日本からはベトナムやミャンマー等への進出増が顕著であることなどの現状についても紹介を頂きました。



次に、アセアン主要国の知財を巡る状況として、特許権の質、最近の商標問題、模倣品問題など外観して頂きました。その後で、タイ、ベトナム、インドネシア、フィリピン、シンガポール、マレーシア、ミャンマーなど各国毎に知財を巡るトピックス、出願状況、知財制度と模倣品等の実態と取締等対策など最近

の状況を紹介頂きました。

最後に、アセアン共同体が目指す世界と、その中で果たす知的財産活動計画 2016～2025 の準備が進んでいることを紹介頂きました。

今後、経済活動において益々注目が集まるであろうアセアン諸国の状況を知的財産の視点から分かり易く整理して頂き、大変参考となる情報を頂きました。

二つ目は、クールジャパン機構専務執行役員小糸正樹氏に「日本の魅力の海外発信」と題して講演を頂きました。

「クールジャパンとは何か」を我々素人にも理解、イメージできるように、まずビデオ紹介で始まりました。日本を支えてきた従来の産業の伸びが鈍化・停滞する中で、日本の生活に根ざした文化、もの、サービス、コンテンツ等が発信の起点となったクリエイティブ産業(食、ファッション、放送コンテンツ等の業界)市場に今後大きな伸びが期待されています。しかし、放送コンテンツや日本食を例に、日本のコンテンツはポテンシャルが高いと期待されるものの、現状はゲーム市場以外の業界では輸入超過という構造的問題があります。

日本の成長戦略として 2002 年「知的財産立国宣言」に始まったクールジャパン政策において、現在クリエイティブ産業を担う企業が海外展開等で抱えるボトルネック（資金不足、拠点不足、戦略不足）解消の支援や人材育成を担うため、資金枠として約 1000 億円を有するクールジャパン機構が設立されました。その位置づけ、投資戦略や事業スキームなど紹

介を頂きました。機構の活動方針は、①プラットフォーム整備事業、②サプライチェーン整備事業、③地域企業等支援型事業であり、現在までの投資は13件、合計で約319億円となっています。



講演では具体的な投資案件についても紹介を頂きました。どの投資案件も魅力的な事業でした。近い将来にクリエイティブ産業が日本成長の牽引役の一翼を担うことを期待、予見させるもので、私たちの気持ちを高揚させる講演でした。

以上